

第2回 県立高等学校改革懇談会 『保原・福島中央』

日時：令和2年2月12日（水） 14：00～15：30
場所：保原高等学校 会議室

福島県教育委員会

本日の進め方

1	保原・福島中央統合校の方向性について
2	第1回懇談会でいただいた御意見について
3	現在の検討状況について
4	スケジュールについて

1

保原・福島中央統合校の 方向性について

急激な少子化

- 全県的な中学校卒業見込者数の減少
 - ・ 2017年から2028年間で約5,300人の減少
- 福島市・伊達管内の少子化
 - ・ 10年間で1058人(29.7%)の減少
- 両校の定員充足率の状況（直近3年間）
 - ・ 保原 2017年(17名) → 2018年(16名) → 2019年(13名)
 - ・ 福島中央 2017年(21名) → 2018年(12名) → 2019年(6名)

高校改革は喫緊の課題に

保原高校

- 定時制・普通科1学級
(定員40名)
所在地：伊達市保原町
・伊達地区の勤労青年の学習機会の場として地域人材の育成に寄与。

福島中央高校

- 定時制・普通科1学級
(定員40名)
所在地：福島市渡利
・福島市内の勤労青年の学習機会の場として地域人材の育成に寄与。

県北地区の普通科の定時制高等学校として、生徒のペースに合わせて学べる生徒の学び直しの役割を備えた学校

定時制 普通科 1学級 (定員40名)
場所：福島中央高校

生徒に寄り添った
丁寧な学習指導や
相談体制

夕間部の導入を検討

生徒の学習ニーズに
合わせた柔軟な学び

進路意識を高める
キャリア教育

一定規模の集団の中で
人間性・社会性を育成

保原・福島中央統合校(仮称) 開校年度(2022年度)のイメージ

新高校を卒業

保原高校の
カリキュラム

4年生
(2019年 保原高校に入学)

3年生
(2020年 保原高校に入学)

2年生
(2021年 保原高校に入学)

現高校1年生

現中学3年生

現中学2年生

4年生
(2019年 福島中央高校に入学)

3年生
(2020年 福島中央高校に入学)

2年生
(2021年 福島中央高校に入学)

福島中央高校の
カリキュラム

1年生(2022年に入学) → 新しいカリキュラム

2

第1回懇談会でいただいた
御意見について

第1回懇談会でいただいた御意見

① 通学に関して

- 保原高校定時制課程には様々な課題を抱えた生徒が在籍しており、そのような生徒たちが環境の変化に対応できるか(福島市まで通うことができるか)が心配である。

② 働きながら学ぶ生徒たちへの対応について

- 夕間部の時間設定だと、1日数時間しかアルバイトができず、生活基盤を支えられない生徒も出るのではないか。

③ 夜間定時制高校の役割について

- 中学生にとって重要な選択肢の一つであり、これまでに入学していたような生徒の今後の進学先はどうするのか。

- 定時制課程には様々な課題を抱えた生徒が在籍しており、そのような生徒たちが環境の変化に対応できるか（福島市まで通うことができるか）が心配である（保護者・改革懇談会など）

統合高校の校舎利用方法に対する検討

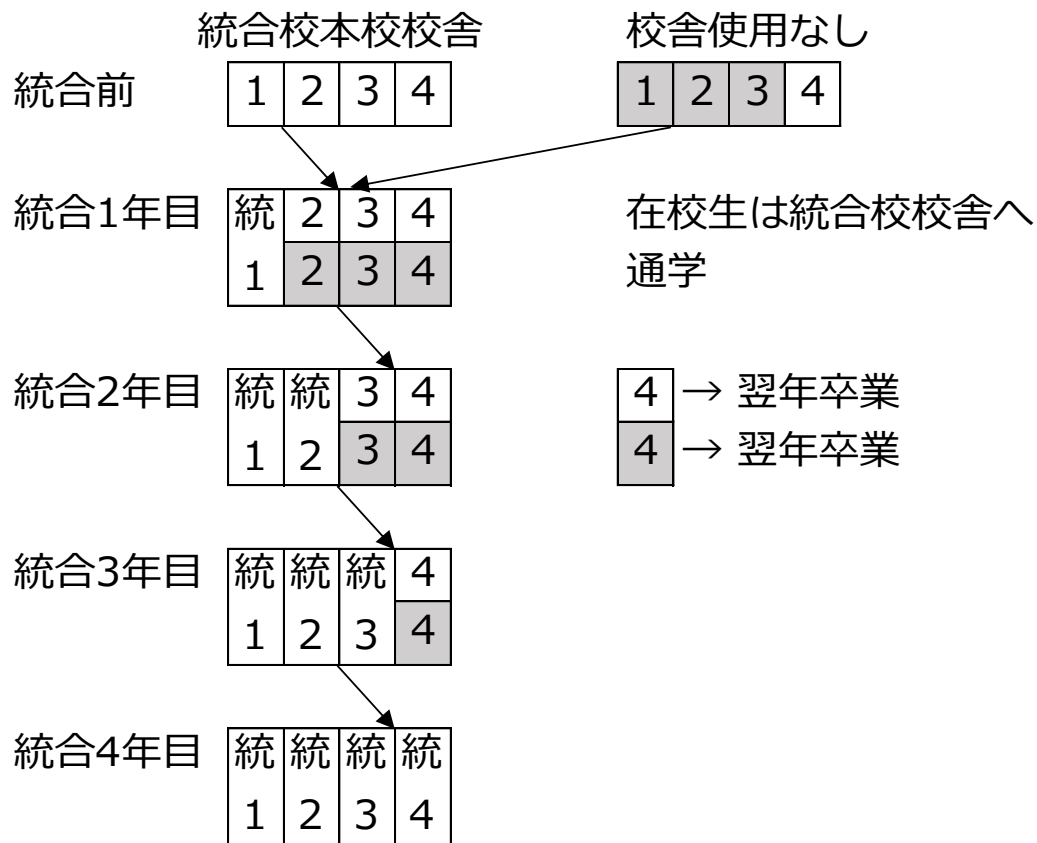
対応方法

「校舎方式」

統合により1つの高校ではあるが、それぞれの高校を校舎として使用し、入学した高校の校舎で卒業まで学ぶ方式。

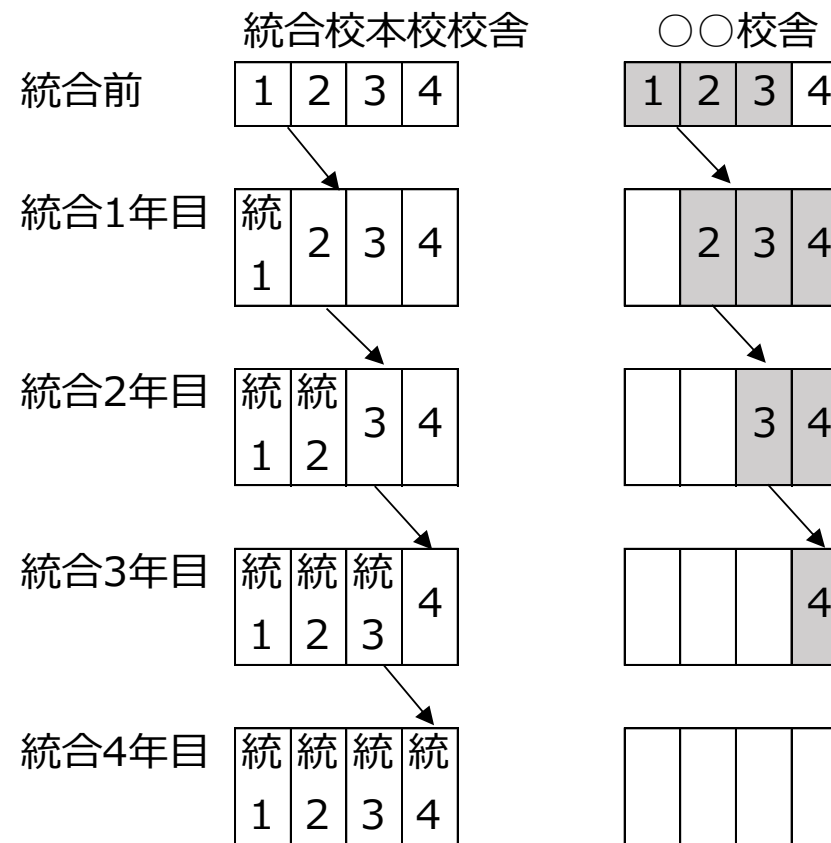
現在の想定と「校舎方式」のイメージ

現在の想定



統合3年目まで、校舎を使用しない高校の生徒（グレー網掛け）が、統合校の校舎に通学する。

校舎方式



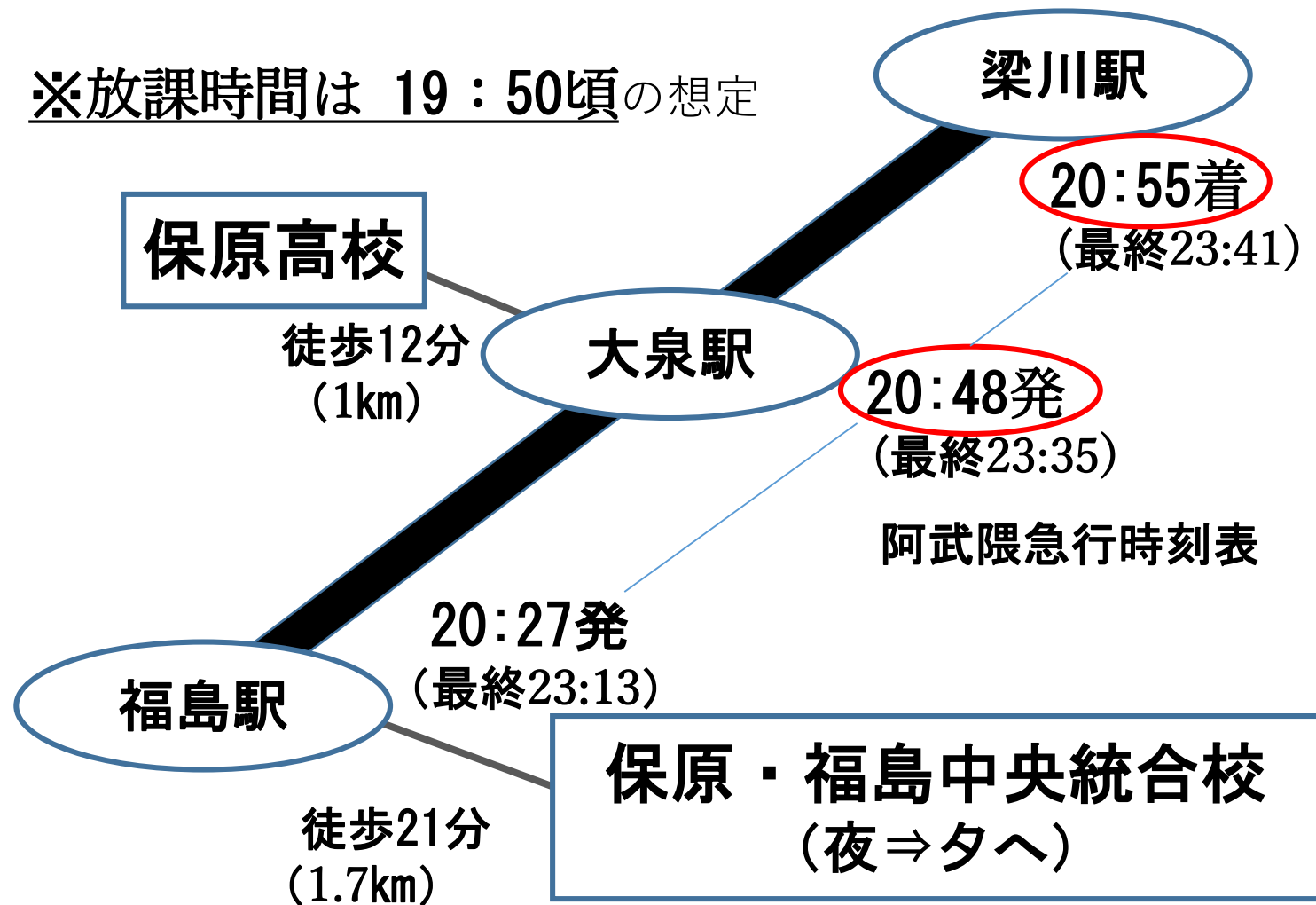
統合3年目まで、2つの校舎を使用。それぞれの高校の生徒は、これまでと同じ校舎で学ぶことができる。

夕間部とすることで県北地区の広い範囲からの通学が可能に

保原（定時制）現在の時程

給食	16：40～17：20
ホームルーム	17：30～17：35
1校時	17：35～18：20
2校時	18：30～19：15
3校時	19：20～20：05
4校時	20：10～20：55
ホームルーム	20：55～ 21：00

※放課時間は 19：50頃の想定



② 働きながら学ぶ生徒たちへの対応について

- 夕間部の時間設定だと、1日数時間しかアルバイトができず、生活基盤を支えられない生徒も出るのではないか。



統合前に入学した生徒

校舎方式により、従来と変わらない環境で学校生活を送り、従来と同じくアルバイトもできます。

統合後に入学する生徒

現在、正社員として勤務する生徒は1割に満たない状況であり「働きながら学ぶ」方向性は確保しつつ、より多くの生徒に多様な学習機会を提供することにつなげたいと考えます。

③ 夜間定時制高校の役割について

中学生にとって**重要な選択肢の一つ**であり、これまでに入学していたような生徒の**今後の進学先**はどうするのか。

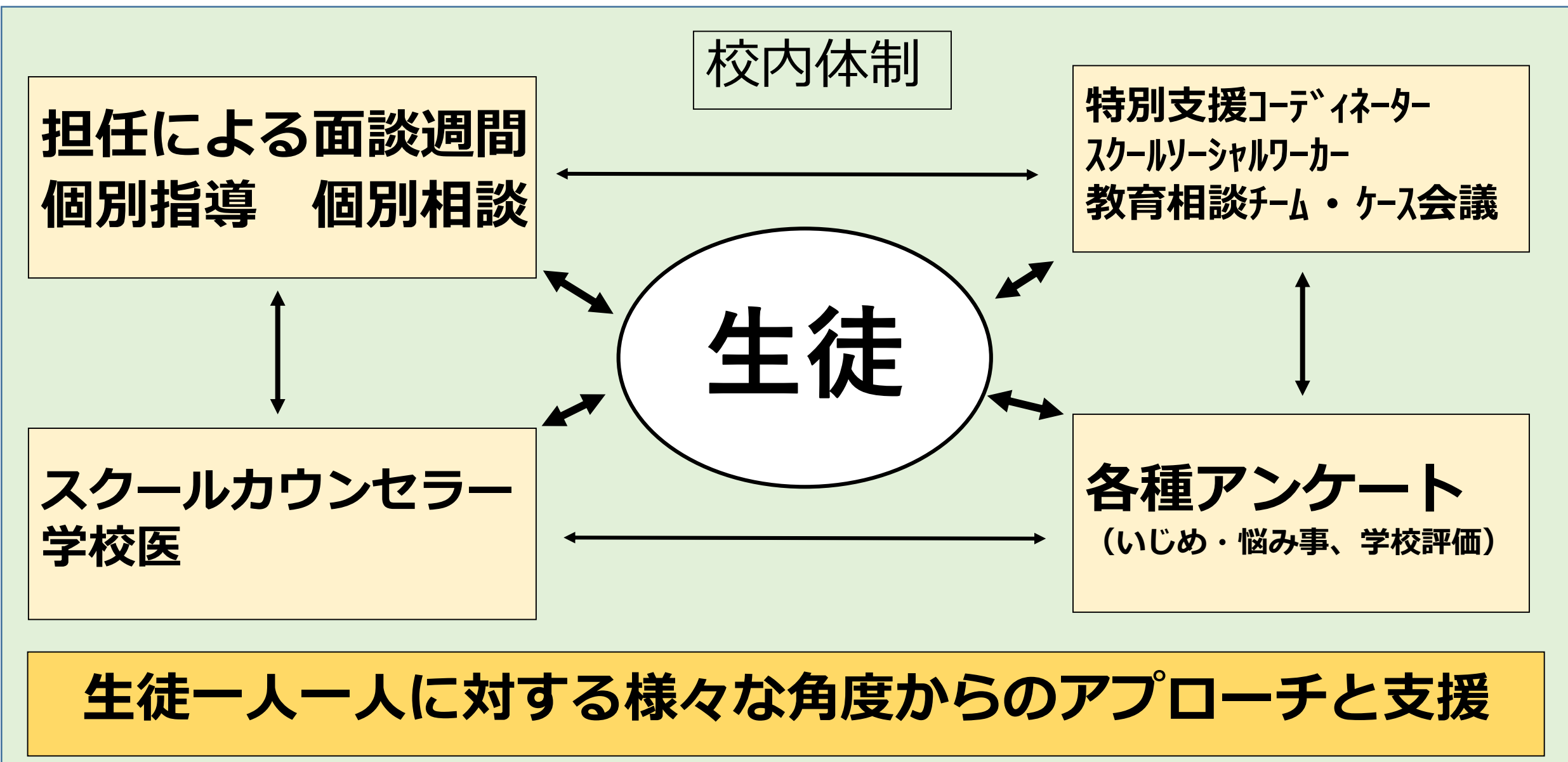


校内体制

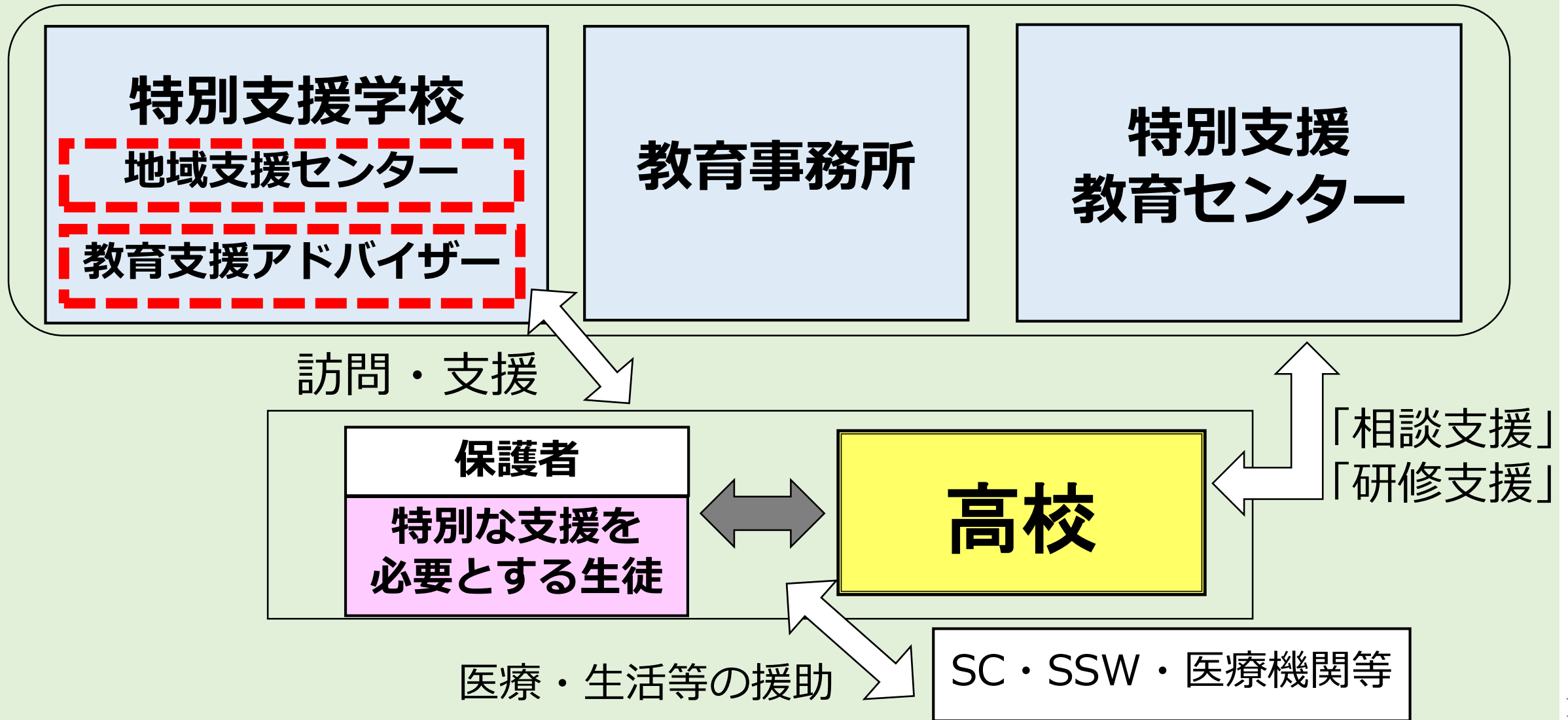
全ての高校において、生徒一人一人にきめ細かな指導・援助が行われています。 (例) SC, SSW等

県の施策 (頑張る学校応援プラン)

「学びのセーフティネットの構築」が主要施策の一つとして掲げられており、特別な支援が必要な生徒の指導・支援の充実を図り、切れ目のない支援体制をすべての学校で整えます。



特別な支援が必要な児童・生徒の指導・支援の充実



3

現在の検討状況について

検討中の主な内容

(1) 単位制への転換について

メリットとデメリットを考慮の上、検討中

メリット

- 生徒自らが、主体的に時間割を組み立てることにより、生徒一人一人が自分のペースで学ぶことができる。
- 学年制と異なり、留年がない。
- 半期単位認定制により、9月卒業も可能となる。

デメリット

- 学年としての一体感が薄れる心配がある。

検討中の主な内容

(2) 教育課程

普通教科のみとするか、専門科目（家庭科や商業科）を設定するか。

(3) 給食は実施するか。

(4) 部活動は実施するか。

4

スケジュールについて

教育内容検討委員会及びワーキンググループにおける
開校準備スケジュール（案）

令和元年度 (2019)					令和2年度 (2020)										令和3年度 (2021)									令和4年度 (2022)					
11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
教育方針 教育目標					教育課程・ 校名の検討										中学生への説明									統合校 開校式 入学式					
魅力化・特色化 の検討					中学2年生への説明会										体験入学実施														
					生徒交流会の実施										統合校入学者選抜														
					・統合校案内の作成																								
令和元年度入学生 ：統合時4年生					令和2年度入学生：統合時3年生										令和3年度入学生：統合時2年生														